

令和3年11月22日

令和3年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和3年11月22日（月曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史	教育長
三 留 利 夫 委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子 委 員	
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	

2 出席職員（13名）

教育総務部長	市 野 由香里
参事（教育施設担当）	森 岡 剛
教育総務課長	政 木 純 也
教育施設担当課長	田 中 佑 典
副参事（教育地域力担当）	丹 野 詩 織
副参事（施設調整担当）	荒 井 昭 二
学務課長	柳 沢 憲 一
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩 崎 政 弘
指導企画担当課長	早 川 隆 之
学校支援担当課長	根 本 勝 司
副参事（法務担当）	平 栗 敬 子
教育センター所長	中 村 純 子
大田図書館長	長 岡 誠

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

~~~~~

(午後2時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和3年第11回大田区教育委員会定例会を開催いたします。本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは、禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に深澤委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

それでは、私から3点について、報告をさせていただきます。

1点目は、各小中学校における周年行事についてです。11月2日は、大森東中学校の40周年行事、11月6日は、貝塚中学校の60周年行事、11月13日は、中萩中小学校の50周年行事、それから、11月20日は、入新井第四小学校の90周年行事、その4校の周年行事に参加させていただきました。

コロナ禍での開催にあたり、苦慮されたと思うのですが、来賓の方を招いて、それぞれの学校で1時間ほどの式典がございました。

周年行事に参加していると、改めて地域と学校とのつながりの深さがよく分かりました。大森東中学校は40周年と、比較的中学校としては歴史が浅いのですが、生徒たちは、大変立派に式を迎えておりました。

それから、貝塚中学校は60周年なので、これも60年というと還暦というか、1サイクルのところに含まれています。貝塚中学校というのは、馬込に位置しておりますが、貝塚があり、かつて古代の人が住んでいたという歴史があって、やはり文士村など、文化を感じさせる学校でした。ここの3年生も大変立派に式を迎えておりました。

それから、中萩中小学校は 50 周年でした。中萩中、漢字でいうと、上から読んでも下から読んでも中萩中という、何かユニークで分かりやすい学校ですけれども、やはり萩中の中心という意味なのですね。地域の方に愛していただいて、子どもたちも立派な態度でした。

それから、入新井第四小学校は 90 周年、この中では、一番古く、大正の頃に生まれた学校です。

それで、一番最近、参加した学校が入新井第四小学校であったため、印象が割と強かったのですが、開式の前に、地震が起きました。子どもたちは、誰の指示も受けずにさっと椅子の下に潜り込み、整然と避難していました。そういうところの姿から、日頃の教育活動の充実が伺えるのではないかなと思いました。その後の子どもたちの呼びかけ、歌なども素晴らしいものがあって、大変感心しました。

入新井第四小学校は、式典の後、祝賀会を開催しました。飲食はありませんでしたが、そこでも、60名ほどの子どもたちが、一生懸命に管楽器を演奏して、それを温かく見守る地域の方がいらっしやいました。

入新井第四小学校では伝統的に毎朝、地域の方が出て、挨拶運動をしています。

それで、すごいなと思ったのは、挨拶をするときに、普通は会釈をぱっとして通り過ぎるのですが、ここの子どもたちは、やはり立ち止まってから礼をするということです。そういうことも、地域の方と一緒に指導をして身に着いているということです。

本当に地域の方が子どもたちのことを愛して、その地域だけではなくて、学校の先生も一生懸命に子どもたちの面倒を見ている、そういう素直な、本当に一生懸命な姿が大変印象的でした。

いずれにしても、周年行事があると学校も地域の方と今一度関わりの強さを改めて認識するところです。

それで、今、コロナ禍の中で、地域との関わりがなかなか薄れていて、地域の方が大変苦労されていますけれども、子どもたちを大事する関わりが続いていたのかなと思いました。

それから、2点目は、研究発表会です。11月12日は、羽田中学校の「中学校における ICT 機器の効果的な活用に関する研究」がございました。子どもたちは、タブレット端末を使い込んでいるなというのがよく分かりました。

それで、この学校は家庭学習におけるタブレット端末利用に関する研究が中心でした。4、5年前までは、家庭学習を全くしないという子が、4分の1から3分の1くらいでしたが、タブレット端末が導入された現在は、本当に数%となり、家庭で復習や振り返りをしていることが、学習効果測定にもつながっているなと思いました。話を聞くことはとても大事ですが、やはり自分でいろいろ検索したりして、調べている生徒が印象的でした。

それから、11月15日は久原小学校の研究発表会がございました。「豊かなスポーツライフを楽しめる子」ということで、体育・健康教育について研究をしていました。コロナ禍で体力や運動不足を心配される場所ですけれども、密にならないような形で、子どもたちが工夫しながら運動を楽しんでいる様子が伺えました。

東京オリンピック・パラリンピックも終わってしまいましたが、レガシーとしてスポーツに対して、これからはしっかりと取り組んでいく必要があるなと思いました。

それから、11月16日は、大森第四中学校の研究発表会がございました。生徒一人ひとりが、学びのエキスパートを目指す授業作りということで、脳科学を基にして、子どもたちの学びの特性みたいなものを生かした授業実践を工夫していました。

これも、各教室の授業に必ず学習目標というのが掲示されていて、その学習目標を目指す課題解決的な学習がされていました。

それから、11月19日は、羽田小学校の研究発表会がございました。「関わり合い、認め合い、未来を開く子どもの育成」ということで取り組んでいました。

学習を進めるときの関わり合い、それから言葉の大切さ、どういうふうに言語能力を生かして、関わりを深めていくのか、学びを深めていくかということで発表がありました。

いずれの学校も、学校全体で教育に取り組んでいくということが、とても大きな力になると思っています。一つの学級でやるよりも学年でやったほうが力になりますし、学校全体で取り組むということが、非常に有利なことになってくるように感じました。

それから、ご報告の3点目は、PTA 連合会との懇談会がありまして、中学校 PTA 連合会の PTA 会長方と話をする機会、それから調布地区の小学校の PTA 連合会の会長と話をする機会がありました。

PTA 活動もこのコロナ禍の中でなかなか集まれなかったりして、そういう苦労をされていらっしゃると思いますが、一生懸命取り組んでいらっしゃいました。

私からは、学校でのコロナ対策であるとか、雰囲気作りについて、話をさせていただきました。コミュニティ・スクールを進めていくときに、PTA の役割はどういう役割なのかという課題意識もありますが、私からは、保護者である方々の PTA 活動というのは、やはり学校と一緒に教育を推進するというので、非常に役割が増していくのではないかとことを挙げさせていただきました。

様々な課題を抱えているのですけれども、やはり PTA の方々と会って、十分話し合いをしながら、コミュニティ・スクールを進めていきたいというふうに報告いたしました。

それでは、ただいまの報告に対しまして、何かご意見はありますでしょうか。

### ○三留委員

今、教育長から、4校の研究発表会について話がございました。私も4校の全てに参加をさせていただきました。それぞれ特色のあるよい研究だったなという感じがしますが、どの学校も個別最適化、協働的な学びについての取組がありましたので、私はこのことに絞って話をさせていただきたいと思っています。

個別最適化と協働的な学びについては、今年1月に出された中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の中で示されている用語で、全ての子どもたちの可能性を引き出し、誰一人取り残さない教育のためのキーワードとして指摘されているところがございます。

それぞれの学校の取組について、話をさせていただきたいと思います。久原小学校は、体育・健康教育に特化した研究でしたけれども、個別最適化の学びとして、一人ひとりに最適な指導方法、学習時間、教材などを柔軟に検討し、その子に適した学習の機会や手だてを講じるということをしていました。

例えば、児童の実態に合わせて、コートや広さ、ボールの種類を変えたり、スモー

ルステップの場を用意しておりました。

大森第四中学校は、脳科学の成果として、右脳と左脳の働きの違いに着目して、自分に合った学び方を会得させることを目指した研究でした。特色的な研究ですが、個別最適化という観点から見ると、児童の実態に合わせて、学びの選択肢を増やすという取組が中心だったのではないかなと思います。数学的な事例として、パターンの違うヒントカードの活用などが報告されていました。

それから、協働的学びに関わって、生徒の特性に合わせた協働学習のメンバーの工夫、学び合いを活性化させるソーシャルスキルトレーニングの事例が発表されていました。

羽田中学校は、ICT の効果的な活用に関する研究でしたが、事例として個別最適化を意識した調べる学習のための活用、それからドリル学習のための活用の紹介がありました。

協働的学習に関わって、各種ソフトを活用して意見を発信することが苦手な生徒も、主体的に取り組む事例が示されておりました。

私は、個別最適化にあたって、2点を意識することが大切だと思っています。

1点目は、あたり前のことなのですけれども、一人ひとりの見取りを丁寧にして、実態に合わせた指導に心がけるということです。指導の個別化というのは、私はこのことに尽きると思っています。机間指導や一人ひとりの言葉がけ、そういったものの大切さというのを改めて感じております。

それから、2点目は、単元の中の一部の授業、または授業の一部を複線化して、子どもの発想や興味、得意などに合わせて追究活動を行わせるということです。児童・生徒の適性、興味・関心に合わせて取組が、学習の個性化につながると考えております。

協働的学習については、交流・話し合いなどが例として出されていますけれども、例えば、どのようなグループでの話し合いが効果的なのか、質の高い交流とはどうあるべきなのかというようなことについて、その学校なりの考え方を明らかにして取り組んでいく必要があると思っています。

羽田小学校は人権尊重教育推進校の取組の発表ですけれども、児童の話し合い活動に、話型を取り入れて効果を上げておりました。

個別最適化、協働的な学びに関わる取組については、ぜひ各研究校の発表内容を区内の学校で生かしてもらいたいと思っています。

## ○高橋委員

私も3校の周年行事に参加させていただきました。コロナ禍での開催については、大変苦勞されていると思いますが、学校の特徴を生かした素晴らしい式典でした。

大森東中学校は、毎年、同じ日に開催するというので、今回も平日になってしまいましたが、曜日も同じだったということで、思いが込められているなと思っています。

全員合唱では、校歌と「ふるさと」を歌うようになっているということでした。とても清々しい合唱でした。

貝塚中学校は、校長先生も10年を振り返ってお話をされていましたが、記念誌に生徒たちの「10年後の自分に送る手紙」というのが載っておりまして、10年後に見たときに楽しみだなと思いました。

入新井第四小学校は、式典と祝賀会がありましたが、式典に出た6年生が喜びの言葉と

演奏を楽しげに行っていた様子が印象的です。

祝賀会では、入新井第四小学校キッズアンサンブルの演奏がありました。4年生は練習の時間が少なかったと思いますが、上手な演奏を聴くことができました。

キャラクターののぼり旗や子どもたちが描いた旗を商店街の通りにずっと飾ってあり、地域の方が一緒にお祝いをしてくださっているという思いがすごく感じられました。地域と一緒にあって、素晴らしい周年行事だったと思っています。

研究発表については、私も4校全てに参加させていただきました。羽田中学校については、以前からICTのモデル校でもありましたので、継続ということで、タブレット端末でワークシートなども使いながら素晴らしい授業展開でした。意見はタブレット端末で共有できるため、授業が効果的に進むという印象でした。

特別支援学級の授業では、Googleスライドを活用して、調べたものを自分なりにまとめ、発表しており、よくまとまっていました。他の子が発表しているのを見て、違いを確認しながら、ああすればよかったな、ああいうふうにもできたなというように意欲的な思いを感じました。

久原小学校は、スポーツライフということで、体育、運動とは別に、保健とか、食育の授業公開もありました。ペーパーサイトなどを使って見える化した授業で、子どもたちは、とても興味をもって授業に臨んでいました。

スマイル一番で、自分も仲間も元気になる学習を提供してあげたいという先生のお話がとてもよかったと思います。

大森第四中学校は、脳科学ということで、私もどんな研究発表だろうと興味を持っていましたが、右脳派、左脳派別に班を作ることによって、自分の考えなどみんなが活発に話していて、その中で協働学習をすることで、さらに様々な考えを共有することができていたのではないかなと思います。

生徒一人ひとりが、エキスパートを目指すという授業ですが、教員自身が学びのエキスパートになるという話をいただきました。

羽田小学校は、関わり合い、認め合い、未来を築く子どもの育成なのですが、これについてはいいところを伝え合おうとか、まず、自己肯定感は大人が持つこと、そういうお話が印象に残っています。4校とも先生方が共に学んでいて、とてもいい印象で素晴らしい研究発表会でした。

## ○教育長

ほかにございますか。

## ○深澤委員

私は、市町村教育委員会オンライン協議会に参加をいたしました。いろいろな分科会がありましたが、私が参加をしたのは「令和の日本型学校教育」という分科会で、6市町村ほどの教育委員が集まり、グループで話し合いました。

私は、事前に指導課から、(仮称)未来ものづくり科についての資料をいただいております、それに沿ってSTEAM教育の話をさせていただきました。

その中で、どの市町村もICT教育をどのように進めていくかというところが課題である

という認識をお持ちでした。「GIGA 通信」とか、「GIGA マガジン」というような題名をつけて、学校ごとにこういう成功例があるとか、こういうのが特徴的だということを教員間で共有をしていく取組をしているところが非常に多かったというのが印象的です。

あと、タブレット端末を持ち帰るか、持ち帰らないかとかという話になりまして、タブレット端末を持ち帰らないと充電できないのではという話になったのですが、市区町村によっては学校に保管庫があって、そこで充電もできるということでした。またルーターを貸し出すというような話もあり、どこの市町村もそれぞれに対応しているという印象でした。

また話に出たのは、そもそもランドセル自体が重いのに、タブレット端末を持ち帰ったら、重過ぎるのではないかということです。新聞でも、子どもの健康上の観点から、重いものを毎日持ち歩くのはよくないことも書いてあったので、皆さん、色々なお話をなさっていたのですけれども、やはり、持ち帰る必要性があるのであれば持ち帰り、そうでなければ学校に置いておくべきなのではないかというような話をしておりました。

ただ、先ほど、教育長から羽田中学校で、タブレット端末を家庭学習で利用していて、それが、非常に効果的だという話もありましたので、そのように目的意識をもって取り組んでいく必要があるのかなと思いました。

あと、もう一つは、コミュニティ・スクールの話も出まして、コミュニティ・スクールの制度を採ってから、2年目の市区町村の教育委員が言っていたのですけれども、学校によって非常に温度差があるということをおっしゃっていました。

細かい内容までは聞いていないのですが、そういう実情があるということと、地域の方が学校に入ってきたやすくなったのがとてもよかったということでした。キーパーソンになる方がどの学校にもいらっしゃるということで、校長先生が、その方を頼りにするようになるから、やはりコミュニティ・スクールという制度を採り入れたことは、地域にとっても、学校にとってもよかったと思うという発言がありました。

あと、阪神大震災を経験した、関西の教育委員が、1995年の阪神・淡路大震災のときに、小中学校が核となって、避難の際、復興の際に非常に大きな役割を果たしたとおっしゃっていました。

今でも、そのときの経験から、小中学校が地域にとって大切だというのが地域の皆さんの共通の認識だということで、この子どもたちが卒業したら、もう学校が存続できないというような地域もあるそうなのですけれども、そのような地域では、地域の方がその学校の存続について非常に高い関心を持っていらっしゃるということをおっしゃっていました。

そういう意味で、やはり地域と学校との協働、協力関係が非常に大切なことなのだという事を学びました。

#### ○教育長

ありがとうございました。

ほかに、ございますでしょうか。

#### ○弘瀬委員

私も、市町村教育委員会オンライン協議会に出席いたしました。



私たちのグループは、5人ほどいらっしゃいまして、教育長経験者、弁護士、私を含め医者、そして、学校に関係のある人がいました。

まず、各地域の自己紹介がありましたので、大田区というのは、23区の中でどういう位置をしているのか紹介をさせていただきました。

そして、令和3年度から取組のありました、不登校特例校に他の地区の教育委員の方も非常に興味を覚えてくださいます、今、どのくらい子どもたちが利用しているのか、在籍校について、そういうような部分に興味があったようです。

小中学校の不登校は、コントロールできますが、卒業後、どうなっているのかということが心配で、そこをどう対応すべきかいうことに困っていました。

それから、登校支援コーディネーターの報酬は、どのくらいあるのだとかいうお話がありました。今回参加した市町村は、どこも人材不足で、そのコーディネーターを含めて、先生たちを集めるのが大変だと言っていました。

そこで、佐賀県では、NPO 法人と契約して、子どもたちの面倒を見てくれる人と学校が一緒になってやっていくというような、そんな取組もありました。

それぞれのところで、同じような問題を抱えていながら、ご苦勞をなさっているのだなというふうに思いました。すごくいい勉強をさせていただきました。ありがとうございました。

#### ○北内委員

先に、教育長からお話がありましたけれども、私も、貝塚中学校、雪谷小学校、東六郷小学校の記念式典に出席させていただきました。その中で、雪谷小学校について報告いたします。

雪谷小学校は、校庭が天然芝で、すごく眩しくて、校長先生からのお話だと、休み時間に子どもたちが転がって遊んでいるというふうに伺いました。

式典は、最初にゆきがや太鼓で盛り上げてくださって、その後、児童たちで作った開校記念の「70さい おめでとう！」の演奏、そして、6年生による「ふるさと」と「八木節」の演奏がありました。

すごく立派な演奏で、このコロナ禍で限られた時間の中、しかも三密を避けて練習されたと思いますが、楽曲がぴったり合っていました。本当に音楽の先生がすごくご苦勞をされたのではないかと私は思いました。また、それを支えてくださった校長先生、教職員の皆さん、本当に私は感謝しています。

先ほど、教育長からコミュニティ・スクールの話がありましたが、今月、私はPTA 連絡協議会に出席させていただきました。小学校 PTA 連絡協議会（道塚小学校）、中学校 PTA 連合協議会（教育委員会）、それから調布地区中学校 PTA 連合協議会（大森第七中学校）でありました。

夜7時から9時くらいまで、児童・生徒のために、保護者たちが一生懸命議論して下さって、感謝を申し上げます。

#### ○教育長

ほかにございますか。

### ○三留委員

今、委員から色々なお話があって、勉強になったのですが、コミュニティ・スクールの話がありました。今、学校評議委員会として、地域教育連絡協議会を各学校でやっているわけですが、これが、コミュニティ・スクールに代わっていくわけです。実施に当たっては、地域教育連絡協議会とコミュニティ・スクールの違いをしっかりと明確にしていかなければいけないと思っています。

実施の仕方に、温度差が出るというのは、私もよく聞いていて「学校教育についてどれだけ熟議ができるか」ということがポイントになってくると思います。これがないと、これまでの地域教育連絡協議会とあまり変わらないのではないかという話になってしまうのではないかと思います。委員になる方も含めて、しっかり研修等をしていただいて、質の高い活動ができるようにしてほしいと思います。

それから、不登校特例校分教室については、大田区が先進的にやっているということで、そういう点が評価されるというのは、嬉しいことだと思っています。分教室ということで、これから不登校特例校の実施にむけて本格的な活動を進めていくわけですが、不登校の子どもたちがしっかり自立して、活動できるようなシステムをつくっているということは、素晴らしいことだと私は思っています。

それから、ICT の活用についても、ちょっとお話をさせていただきます。このごろ、研究校しか学校訪問ができていないのですが、研究校の発表に行っても、本当に ICT の活用が多様になりました。ソフトがすごく増えて、いろいろなソフトで、いろいろな活動をやっているという印象です。「タブレット端末は文房具と同じ」というような意見がありますが、目的に沿って使うということが、徐々にできてきているのではないかなと思っています。

今回、授業を見た中でも、印象に残った使い方がありました。中学校では、生徒が作成した英作文の入った画像を基に発表するとか、図形ソフトで図形を自在に動かして、子どもたちがそれを基に証明するなどの活動がありました。小学校では、理科の学習で、楽器を使って、音が震えるところを画像に撮って発表するとか、特別活動で、子どもたちが自分でタブレット端末を使用し、歯の写真を撮ってきて、その歯の写真を基に、その歯の特徴を考えさせるなどの使用がありました。いろいろな使い方があって、なかなか面白いなと思っています。指導課を中心に積極的な活用を推進してきたことで、大分成果が上がっているという感じがしています。

授業以外にもいろいろな使い方をしていきます。少し前まで連絡帳を使って次の日の用意などを書かせていたのですが、今、連絡帳は使わず、タブレット端末を活用している学校が多いようです。学校便りなどのお知らせのプリントも、もちろん紙でも渡すのですが、画像でも各家庭に送っているようです。それから、周年行事とか研究会の発表も画像配信が当たり前になってきました。周年行事は5、6年生しか参加できないため、他学年の児童は、各教室の映像で見られるようにしていました。研究発表会の授業では、密で教室に入ることができない先生のために、ライブ配信を違う教室で見られるようにしていました。いろいろな使い方が今始まっていると思っています。

タブレット端末の活用については、もちろんプラス・マイナスがあるというのは、私も

十分承知しています。健康面の配慮や情報モラルの問題などを、しっかり指導いただき、ぜひ各学校で積極的な活用をしてもらいたいと思っています。

それから、周年行事については、私は、貝塚中学校と東六郷小学校に出席しました。教育長、高橋委員、北内委員がおっしゃってくださったのですけれども、私も子どもたちが本当に立派な態度で参加していて感心しました。儀式的行事を行い、清新で厳粛な雰囲気子どもたちに味わわせることの大切さを感じました。コロナ禍とすることで、規模は縮小していますが、そういう経験を子どもができたというのはよかったと思っております。

#### ○教育長

ありがとうございました。

それでは、本日の日程は、これで終了でございますので、これをもちまして、令和3年第11回教育委員定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

(午後2時38分閉会)

令和3年 第11回 教育委員会 定例会 11月22日(月) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（施設調整担当）

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事（法務担当）

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和 3 年 11 月 22 日

令和 3 年第 11 回教育委員会定例会日程

日程第 1 教育長の報告事項